

まんたら通信

第137号 (通巻169号)

平成19年(2007)11月 佛誕2573年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派 天香山 紫雲寺 高橋 龍渉
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
URL <http://www.awa.or.jp/home/ryusho/>
E-mail ryusho@awa.or.jp



ひと切れのパン 「幼いマリコに」

ジョージ・アリヨシさん(81歳)が、占領軍兵士として東京に来たのは、敗戦の年の秋だったそうです。

激しい爆撃で廃墟になった東京で、わずかに焼け残った丸の内の旧郵船ビルの兵舎を出て、初めて会った日本人が、七歳の靴磨きの少年だったということです。

靴磨きをしている僅かの間の会話から、少年の両親が亡くなったこと、三歳の妹と二人暮らしであることを知りました。

小学校一、二年生の幼い子供が、迫り来る冬を前に、どんな思いで日々を送っていたことでしょうか。

その年はかつてない凶作で、一千万人の国民が餓死するだろうと言われていたそうです。

少年のひもじさは、傍目にもはっきり分かる様子でしたが、背筋をしっか

りと伸ばして、てきぱきと受け答えしていたそうです。

アリヨシさんは急いで兵舎に帰り、持出しが禁じられていたパンに、バターとジャムを塗ってナプキンで包み、急ぎ取って返して、少年に渡ししました。

少年は「ありがとうございます」とい

いながら、靴クリームやブラシを入れる箱にしまい込みました。

不思議に思ったアリヨシさんが、何故食べないのかと聞いたところ「お腹は空いていますが、家で待っているマリコと一緒に食べたいのです」という

答えが返ってきました。

その後、二ヶ月で日本を離れるまでの間、ハワイ出身の仲間と一緒に少年を手助けしたそうです。

この、七歳のお腹を空かせた少年が、三歳の妹のマリコと、僅か一切れのパンを分かち合おうとした心に深く感動したアリヨシさんは、その後来日の度に手を尽くして少年の消息を尋ねましたが、名前を聞き漏らしたこともあって、ついに会うことが出来ずにいるそうです。

以上は、十一月六日付産経新聞『やばいぞ日本』第4部『忘れてしまったもの』、論説副委員長の中静記者の記事です。

話を伝え聞いた中静記者が、ハワイのアリヨシさんに経緯を確かめるため問い合わせた手紙への返事には「荒廃した国家を経済大国に変えた日本を考

えるたびに、あの少年の気概と心情を思い出す。

それは『国のために』という日本国民の精神と犠牲を象徴するものだ。

そして、幾星霜が過ぎ、日本は変わった。今日の日本は生きるための戦いをしなくてよい。殆どの人々は、両親や祖父母が新しい日本を作るために

払った努力と犠牲のことを知らない。総てのことは容易に手に入る。そうした人たちは今こそ、七歳の靴磨きの少年の、家族や国を思う気概と苦闘をもう一度考えるべきである。義理、責任、恩、おかげさまで、という言葉が思い浮かぶ」と記されているそうです。そして中静記者は返信の意味について、「親殺し、子殺し、数々の不正や偽装が伝えられる中、もう一度嘗ての日本の心に思いを馳せて、凛とした日本人たれという、祖国への思いが凝縮されていた」と締めくくっております。ご存知の方も多いと思いますが、ジョージ・アリヨシさんは、ハワイ生まれの日系二世。日系人としてアメリカで初めての州知事をお勤めになった方ですね。先月号で紹介した、台湾人の金美齡さんもそうですが、岡目八目の言葉通りで、海外から見ると戦後の日本の異常さが目立つのでしょうか。ドイツでは、クライン孝子さんも日本を憂えていますし。

ご援助、有り難うございます。

鴨川 海福寺様・千葉 北原様・館山 児玉様・愛知 竹島様・白浜 岩澤様・白浜 由木尾様・館山 山川様・東京 福原様・白浜 木曾様・千葉 吉田様・富津 田中様・いすみ 吉原様・館山 松苗様・八王子 宮内様・白浜 満願寺様・成田 石橋様・白浜 高田様・館山 山口様・館山 川名様・白浜 小谷様・東京 浅沼様・東京 高橋様

この他に、名前は伏せておいて欲しい、という方も含めて沢山の方々のご援助を戴いております。

たまに会う時に「読んでるよ～」というお言葉を戴くことがあって、これもまた元気のもとになっております。

「11月になるとガソリン代が騰るということで、年金暮らしにはこたえるから10月のうちに来たよ。」とわざわざ千葉市から来てくれた中学校時代の級友もいました。有り難うございました。

◆立冬。冬の始まりですね。お元気ででしょうか。

アタフタしているうちに、今年もあと2ヶ月を切りました。「・・・今年も何にも出来なかったなあ」と、矢張り思ってしまう。

◆春ごろお知らせした“誰もが入れるお墓”、永代供養墓の工事が漸く始まりました。基礎工事が進んでいるところですが、毛利石材さんのお話では、今月中に形が出来るとのことでした。

本体ができ上がったら、毛利さんが観音様を寄進して下さるそうです。鐘楼堂のすぐそばですから、朝6時と夕方6時の鐘の音、毎日のお

経を聞きながら眠ることが出来ます。跡取りがいなくて心配・・・という方の問い合わせもありました。

尚、地元を離れて世代を重ねると、先祖代々のお墓へのお参りが遠のいてしまうのが心配です、というお檀家もおいでですが、そのことならご安心下さい。

知らせて下されば、お寺で代行致します。お施餓鬼やお彼岸のお塔婆などは、以前から代りにお参りしておりますし。◆これも、前に書いたかと思いますが、今月21日から29日まで、インドへお参りに行きます。同行は、8年前とほぼ同じ7人。今回は旅行会社プランニング・ワー

ルドの社長、山下さんに特にお願いして、お釈迦様の最後の旅の跡(ラージギルからクシナガラまで)を辿ることになりました。

序でに、お誕生のネパール領ルンビニにも行く予定です。◆今月の野草は【きく科アキノノゲシ属】ヤクシソウです。秋が深くなる頃、日当たりのよい岩の多い痩せ地に明るい黄色に咲きます。名前の由来は、葉の形が仏像の光背に似ているから、という説があるそうです。尚、先月の野草はヤマハッカでしよう、館山の居酒屋和吉のママ岩田さんや、鈴木一幸さんが、メールで教えて下さいました。 07.11.09 龍渉



余滴